

白山ふるさと文学賞

第九回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 優秀賞

## 私の夢

明光小学校六年

森<sup>もり</sup>

紅乃弥<sup>このみ</sup>

私は、将来看護師になりたいです。理由は四つあります。

一つ目は、私は体調が悪い人や病気になる人が元気になる姿を見たら、うれしくなるからです。私は以前給食委員になったことがありました。給食委員になったことで、初めて多くの残食があることを知り、このことが栄養士や調理員の方々をなやませていると知りました。そこで私たちが残食を減らす取り組みを行いました。その結果前より残食が少しずつ減るようになりました。私はこの経験により、一つ一つの仕事をしっかりとやり切ることで、私だけでなく周りの人々も喜ぶ結果を出すことができるということが分かりました。そして、ふだん気にしていなかった仕事の大切さを学ぶことができました。看護師の仕事は、人命に関わる仕事であるため特に責任重大な仕事だと思います。だから、私が今までの経験してきた仕事で責任の大きさを、一つ一つの仕事をていねいに行うことを忘れずに今後の生活に活かすことで看護師になりたいという夢につなげていきたいです。

二つ目は、看護師になることができたなら、仕事で学んだことを生活に取り入れることができると思っただけです。例えば、街で倒れている人がいたら看護師の仕事で学んだことを利用してその人のことを助けてあげられます。近年では熱中症で倒れる人が多かったり、急な災害が起ることがあったりしたので、そういう場面に出くわしたときにあわてずに適切な処置ができます。少しでも多くの人を助けられるような人になりたいと思います。そして、人を助けようと思う気持ちで看護師になることでより強くなると思います。自ら人を助けようとしても、勇気も助けてあげられる知識もないので、看護師になって、たくさんの人を助けられるような知識をつけたいです。

三つ目は、看護師がコロナウイルスの自粛期間中にエッセンシャルワーカーとして働いていた姿を見てかっこいいと思っただけです。エッセンシャルワーカーとして働いていたのは看護師だけじゃありません。しかし、私が自粛期間に体調をくずして病院に行ったときに看護師が、

ときどきと働いている様子を見て、コロナウイルスにかかるリスクがあるのに、いつも通り一人一人にやさしく接している姿が強く印象に残りました。看護師の人がていねいに接してくれて私は、とてもうれしかったです。そして、ソーシャルディスタンスを保つ工夫もあり、しっかりとコロナウイルスの対策をしていた看護師の方々はかん者の気持ちを少しでも明るくしようと接してくれていたのかなと思います、とても尊敬しました。

四つ目は、看護師になると優しくなれると思ったからです。私には弟が二人います。二人が喧嘩をした時には私がおこってしまったり、勝手にイライラしてやつ当たりもしてしまいます。基本的におこりたくないし、私もおこられるのは好きじゃありません。看護師の方々も人間なので、きつとつらかったりイライラすることもあると思います。しかし、やさしい看護師が私の夢なので、かん者に対してやさしく接する看護師の姿を、しっかりと見習いたいと思います。

私は、心配りができてやさしい看護師になりたいです。そのために今は朝弟と登校する時に重い荷物を持っていたら半分持つてあげたり、電気がつけっぱなしになっていたらこまめに消したり、かん気のためにまどを開けておいたりなど、細かいことに気をつかっています。これも気づかないような、小さな事だとしてもその小さな事を日頃から行うことで助かる人や、喜んでくれる人がいると考えて、これからも私が目指している看護師になれるように、たくさん勉強をして、今以上にしっかりと周りを見て行動をみんなに頼られるようになりたいです。そして、今コロナウイルスがはやっているのです。今やっつけた突然のことが起きて、しっかりと対応できるように、今やっつけた一つの事が将来につながると信じて立派な看護師になり、子どもたちに夢をあたえられるような存在になりたいです。